

病害虫発生予察特殊報第2号

平成20年2月28日
三重県病害虫防除所

本県ではこれまで発生がなかったジャガイモシストセンチュウが発見されましたので、以下の情報に注意してください。

1 病害虫名 : ジャガイモシストセンチュウ
学名 *Globodera rostochiensis* (Wollenweber, 1923) Behrens, 1975

2 発生確認検体 : 前作ジャガイモ(馬鈴しょ)の土壌

3 発生確認地 : 四日市市

4 発生確認の経過

平成19年12月18日、四日市市の農家から三重県科学技術振興センター農業研究部に届けられた土壌中にシストセンチュウ類の幼虫が確認されました。標本を独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター及び同機構北海道農業研究センター並びに横浜植物防疫所へ同定依頼したところ、ジャガイモシストセンチュウであることが判明しました。

ジャガイモシストセンチュウは、ジャガイモに重大な被害をおよぼす害虫としておそれられています。国内では昭和47年に北海道で初めて確認され、その後長崎県(平成4年)、青森県(平成15年)でも発生が認められています。

5 特徴

(1) 被害

土中でジャガイモ等の根や塊茎(イモの部分)に寄生します。発生密度が高くなると、栽培初期から生育が悪く、早くからしおれるためイモの肥大が抑制されます。結果として収量が落ちるとともに、被害が大きい場合には枯死することもあります。

(2) 形態

卵は長さ0.1mm、幅0.04mm程度の長楕円形、孵化直後の幼虫は、細長い糸状の線虫です。雌成虫は次第に肥大し、最後には0.4~0.6mmのほぼ球形になります。この球形の雌は白色、黄色を経てシスト(写真右)と呼ばれる褐色の殻になります。シストの中には数百個の卵を持っています。

(3) 生態

①シストで越冬し、ジャガイモが作付けされると、シストから孵化した幼虫が根に侵入して生育し、再びシストとなります。

②シストの状態では、寄主となる植物が存在しなくても、土壌中で20年以上存在することもあります。

③ジャガイモを年1作する北海道では、年間1世代で、シストで越冬するといわれています。年2作する長崎県では、年間に2世代経過後、シストで越冬しますが、幼虫(写真左)で越冬するかどうかはよくわかっていません。

6 一般的注意

(1) ジャガイモ以外には、トマト、ナスなどのナス科植物に寄生しますので、ナス科作物でこの線虫による被害が疑われる場合は、病害虫防除所等の県の関係機関に連絡してください。

(2) 種イモには、植物防疫所の検査に合格したものを使用し、生食用イモは絶対に使用しないでください。

(3) 農作業に使用した農機具などに付着した土により、線虫が移動することがあるので、注意してください。

7 防除対策

- (1) 発生地域からの土壌の移動はまん延を助長するので、圃場で使用した農機具等を他の場所に移動する前に、土を除去・洗浄してください。また、洗浄に用いた水については、他の圃場へ流れないように、発生圃場に留めるなどの措置を行ってください。
- (2) 栽培終了後は野良ばえを除去するとともに、ジャガイモの植え付け前には殺線虫剤などによる土壌消毒を行ってください。
- (3) 感受性の高い品種の植え付けを避け、抵抗性品種の導入やナス科以外作物との輪作体系を取り入れるように努めてください。



ジャガイモシストセンチュウの幼虫
(北海道植物防疫協会提供)



根表面におけるシストの付着
(北海道植物防疫協会提供)

住所 三重県松阪市嬉野川北町 530
電話 0598-42-6365
FAX 0598-42-7568
URL <http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>